opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 44

スペイン内戦後、オプス・デ イの活動はマドリードだけで なく、スペインの多くの地方 都市にまで広がりました。 都市し、この発展と同時に、教 会の内外に激しい批判や中傷 が出てきました。

2024/04/19

## 過去の記事はこちらから

スペイン内戦後、オプス・デイの活動はマドリードだけでなく、スペイ

ンの多くの地方都市にまで広がりま した。しかし、この発展と同時に、 教会の内外に激しい批判や中傷が出 てきました。以前から反対する人は いました。なにしろ、普通の信者が 社会の中で聖人になるよう呼ばれて いるという教えは、教会の中では見 られなかったものでしたから、これ は間違っているのではと疑う人が あっても不思議ありません。また19 世紀からヨーロッパに広がった世俗 主義(宗教は個人的なもので、政治 や文化や経済とはまったく切り離す べきだという考え)の人々にとって は、信者は社会をキリスト教の精神 で満たさないといけないというオプ ス・デイの教えは気にくわないもの でした。

聖ホセマリアは、オプス・デイについて教会の指導的地位にある司教や司祭たちにはことあるごとに説明し、教会当局の理解を得ていました。しかし、そのめざましい発展

は、教会のある人々の嫉妬心と疑惑 心をかき立てました。自分たちの指 導を受けに来ている学生たちが、奪 われるのではないかとの危惧したよ うです。

聖ホセマリアは昔から不正な批判を 受けたときは、「黙って、祈り、仕 事をする」という方針で、今度もそ のように努めましたが、中傷は収ま るどころか激しくなるばかりです。 そこで友人の司祭や修道士の助言を 聞いて、反対をする中心人物に直接 話しに行くことにしました。そして 互いに相手を尊重する約束をしまし たが、この約束は守られませんでし た。

この嘆かわしい状況を見て、創立者のよき理解者であった、マドリードのレオポルド・エイホ司教はオプス・デイに教会の法律的認可を与えようと思いました。しかし、これもオプス・デイの新しさのため簡単なことではありませんでした。

## 尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seijosemaria-44/ (2025/10/24)